

令和２年度２学期始業式 式辞

令和２年８月２４日

皆さんおはようございます。今回も、残念ですが、放送での始業式を行います。

今年は、いつもより短い夏休みではありましたが、大きな事件や事故もなく、こうして皆さんとともに２学期を迎えられることを、うれしく思います。今日は二つの話をします。

１つ目は本校の情報の発信についての話です。

１学期は新型コロナウイルスの影響で自宅学習が続きました。この間、先生方はいろんな形で皆さんに情報をお送りしました。例えば授業に代わる動画配信では３学年分合わせると６００本を超えます。驚くべき数です。これは一例です。先生方には頭が下がります。

また、今年は例年のオープンハイスクールが実施できなかったことから、神戸地区ではウェブオープンハイスクールで中学生の皆さんに情報提供することになりました。放送委員会が作成したウェブ版オープンハイスクールを物理班の協力で、先日から本校ホームページで見ることができます。本当に素晴らしいものを作ってくれたと感心しています。

また、映画「思い、思われ、ふり、ふられ」の本校での撮影場所を紹介する動画を、自治会執行部が作成してくれました。これも本校ホームページからリンクをはっていただきました。とても面白い出来映えです。

どちらもぜひ、見て欲しいと思います。

次に、二つ目の話です。

東郷平八郎という人の話をします。

東郷平八郎とはどのような人か知っていますか。日露戦争で、連合艦隊司令長官として海軍の作戦を指揮し、ロシアが太平洋に配備していた艦隊を撃滅した後、世界最強と言われていたバルチック艦隊を対馬沖で迎え打ち、日本海海戦において大勝利をおさめ、日本の勝利に大きく貢献した人です。

この東郷平八郎という名前を、本校の校庭で目にすることができます。それは、科学館の前にある「浩々園」という石碑と、その案内板の説明文の中にあります。

昔、科学館の北側に、一誠神社という神社が建てられたのですが、これを別名東郷神社と呼び、東郷平八郎の遺髪が祀られていた、ということ

が書いてあります。

では、この東郷平八郎の遺髪はどこにあるのか、今は校長室の中の奉安庫と呼ばれる作り付けの巨大な金庫の中に、東郷平八郎の使ったネクタイ、東郷平八郎の軍服につけられていた階級章とともに大切に保管してあります。

神戸高校の歴史を紐解くと、思わぬところで思わぬ人につながるがあって興味深く感じています。

さて、東郷平八郎の残した言葉の一つを紹介します。こんな言葉です。

「愚直と笑われるとも、

終局の勝利は

必ず誠実な者に帰すべし。」

愚直という言葉は、馬鹿正直、言い換えれば、一途、ということです。誠実な人は、時にその愚直さ故に人から笑われることもあるが、最後に勝つのは必ずそういう人である。最終的に得る成功は、必ず誠実な人にやってくる、ということです。

僕は、君たちに、いつもできるかどうかは別にしても、誠実に生きようという気持ちは持っていてほしい思います。

誠実に生きる。その生きざまが人の心に届き、物事を動かし、不可能を可能にしていくのだと思います。結果として、きっと人生を悔いのないものにしてくれるのだと思います。

本日の話は以上です。2学期も、皆さんにとって充実した学期になることを願って、式辞とします。